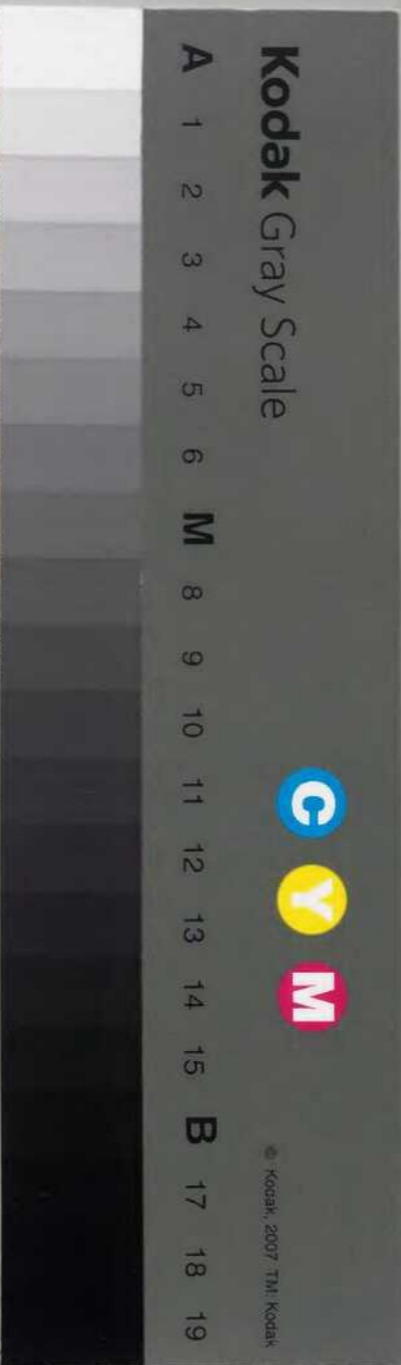


寛永諸家譜

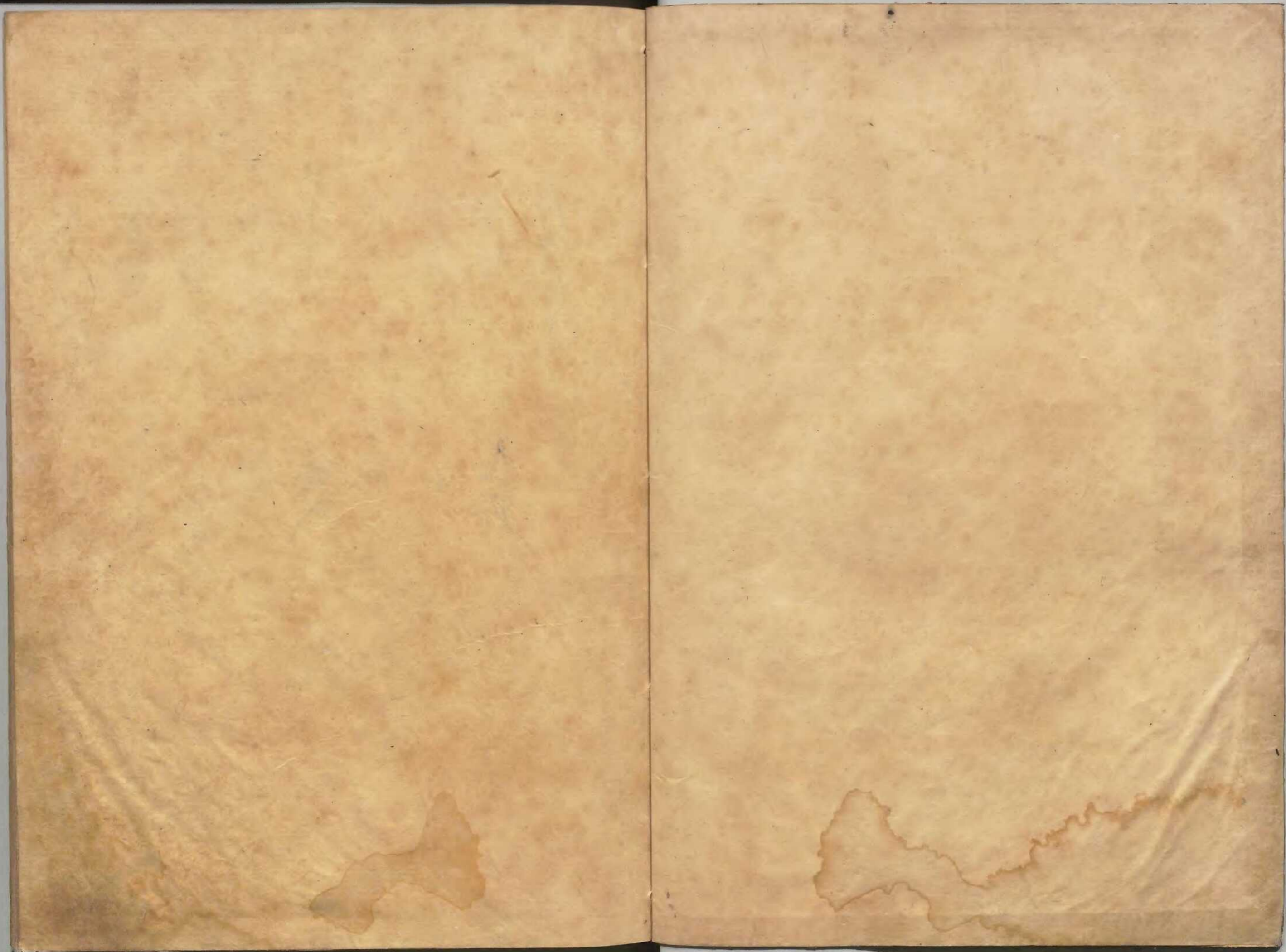
未劫  
二卷之内

175

内閣文庫			
番號	和	20199	
冊數	186(175)		
函號	特	76	1



裏面記載のない箇所は省略



米津	喜柳	深谷	山瀬	下鴻	川井	有泉	依服	伊達
高井	小知	徳早	内川	塩入	勝	石渡	松野	

寛永諸家系圖傳

未勅

米津

勝政

左馬助

清康君

生國之河

廣忠

大指現了法之

永禄十二年正月二十三日一病死

浅草文庫

法名淨仙

政信

小次

生國同お

廣忠

大権現

元龜三年十二月二十三日

討死

法名淨道

康勝

保全

生國同前

天正元年

大権現

同八年

同十八年

長十五年

台座院殿

六十九歳少く病死

法名全白

正守

長七郎

生國を以

文長五年六月五日

台徳院殿より借

御次乃らの敷とつとむりちよ

伊納此役とけとむ

田政

勅告求

生國を以

天正五年

大指現より此之より小牧小田原

取所此伊陣より修身

文禄年中

台徳院殿田政を

大指現より清浄心とて

台徳院殿より此之より

河使番となり

安永五年奥列系勝と河退治也

御馬の記付奉り進よりとくに

上方征伐れり中山道より河進發

の節志ころいそまら

同九年江戸町奉りとなり

寛永元年十一月二十二日病死  
歳六十二

某

助左吏

生國曰あ

大指現り

田盛

内苑助

生國武苑江戸

元和九年

台徳院殿よりい

將軍家より福見より

寛永二年父乃造次を為領してつゝ  
きてまゐる

政者

十郎左衛門 生國造江

実祖父堀若九十郎政次三列の令り

大権現よりほくまゐる

元龜三年十二月二十九日三方系一

とひく討死にせし紀四十五歳

実父堀若九十郎政盛を列代令り

大権現よりほくまゐる

天正十二年六月二十九日病死歳二十八

堀若ハ源氏なり 家乃紋釘費

政者二歳少く未津勘吉求田政が

家より養ひらる是よりりて氏と未津

とありていふなりなりとありひる

台徳院殿よりほくまゐる

文長十六年 伊勢勘氣とあり

寛永五年 伊弉諾一あつらひ

いざなれ 濟々

將軍あつらひ 済々

家乃紋 榎桐乃系



米津

先従を井上と号と今は母方  
乃氏よりて米津とありし

某

井上高直は 生國長河

長親より一は之をてまづのち

松平内膳正より属と

重信しげのぶ

井上元時きのの在野  
生國なま同お  
父乃ちち泣なとと結むすぐ松平内膳まつだいら正ただ一ひと房ふら  
のちうれいふ

貞重さだしげ

井上甚右衛門  
生國なま同お  
ううめめ松平内膳まつだいら正ただ一ひと房ふら

浪人なみのりとなふ

享長十九年大坂陣おさかじんの時とき

いふれ

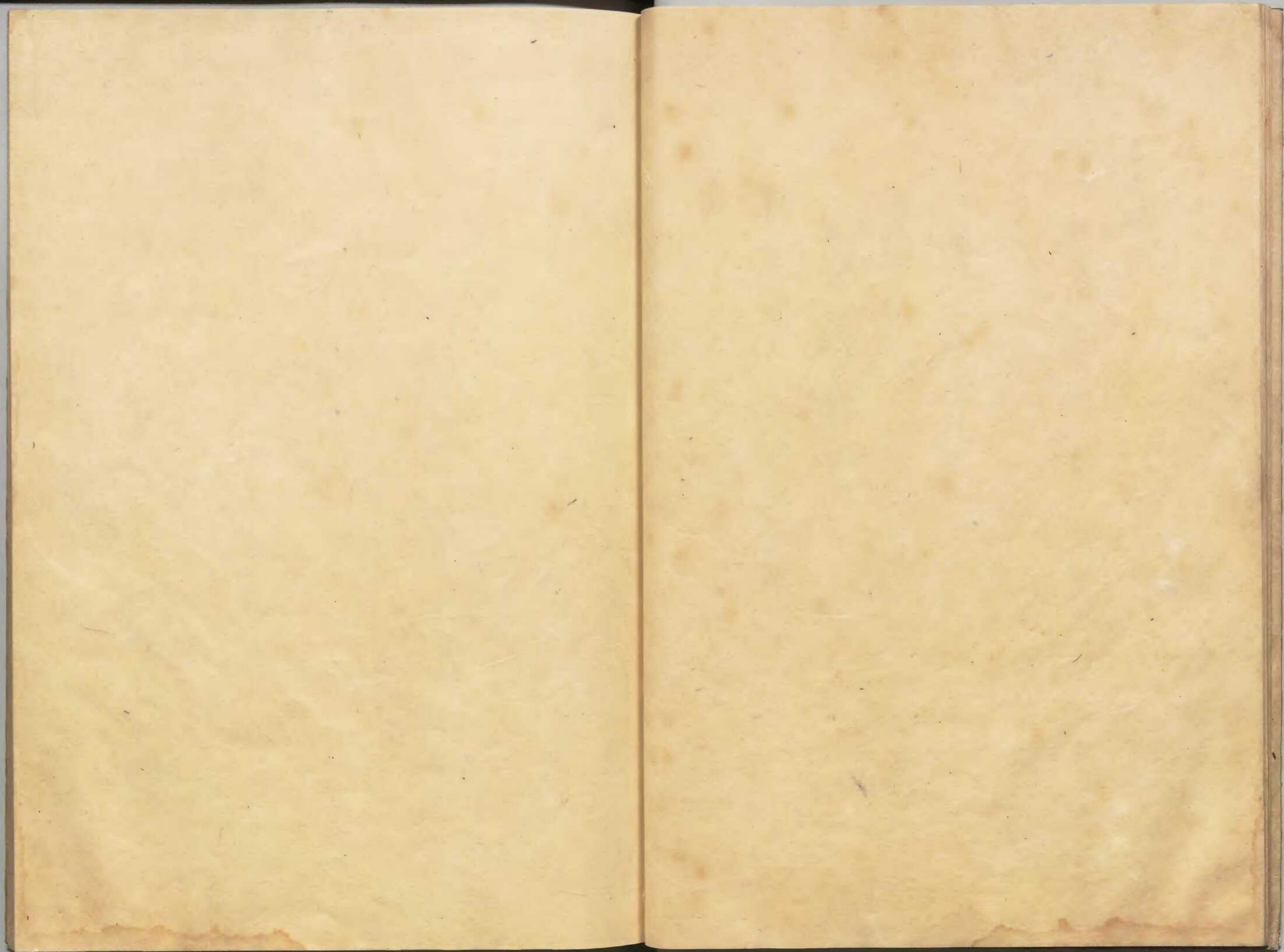
大指おほさし現まるる名な借かりり

納命なまがひよりより紀列きり頼宣たののぶ弼すけ

房ふら

寛永十年かんえいじゅうねん死しと歳とし七十九





某

内苑

今川義元ノ所ノ遊列ノ事  
三百貫文ノ地を以て

高井

先祖三列高井ノ所  
高井ノ所

永祿三年冬列捕掎（ひら）りよといふ  
義元信長と戦（たたか）ひ義元討死（う）乃  
少紀内苑同輩死（な）と

貞重（まことしげ）

助長来

命（いのち）とつけむらうらう

大指現（おほさし）りはくさうまうり武列（ぶ）

久米（くめ）口（くち）しといひく地（ち）と移（うつ）り

且津（かつ）朱（しゆ）平（へい）とふふ今（いま）よ是（これ）と取（と）り  
開（ひら）ヶ系（けい）河（か）陣（じん）乃（な）ほ二百石の地（ち）とふ  
ふふらうら（ら）嚴命（げんめい）とくふらうら  
ふた巻（まき）と貞重（まことしげ）あひ中（な）もたに同心（どうしん）を  
あつらふと奥方（おくかた）此（こゝ）巻（まき）と流（なが）中（な）む八十一  
歳（さい）少（すく）く死（し）と  
注名（しゆな）開（ひら）火（か）今（いま）宗（そう）徴（てい）

貞清（まことしみよ）

市右衛門

安永九年

右衛門院殿 御借

長十郎 御借

つやじう乃り 渡邊山城 御借

厨一 涉切 御借

とほとほふり三也

大坂御陣乃 御借

御借

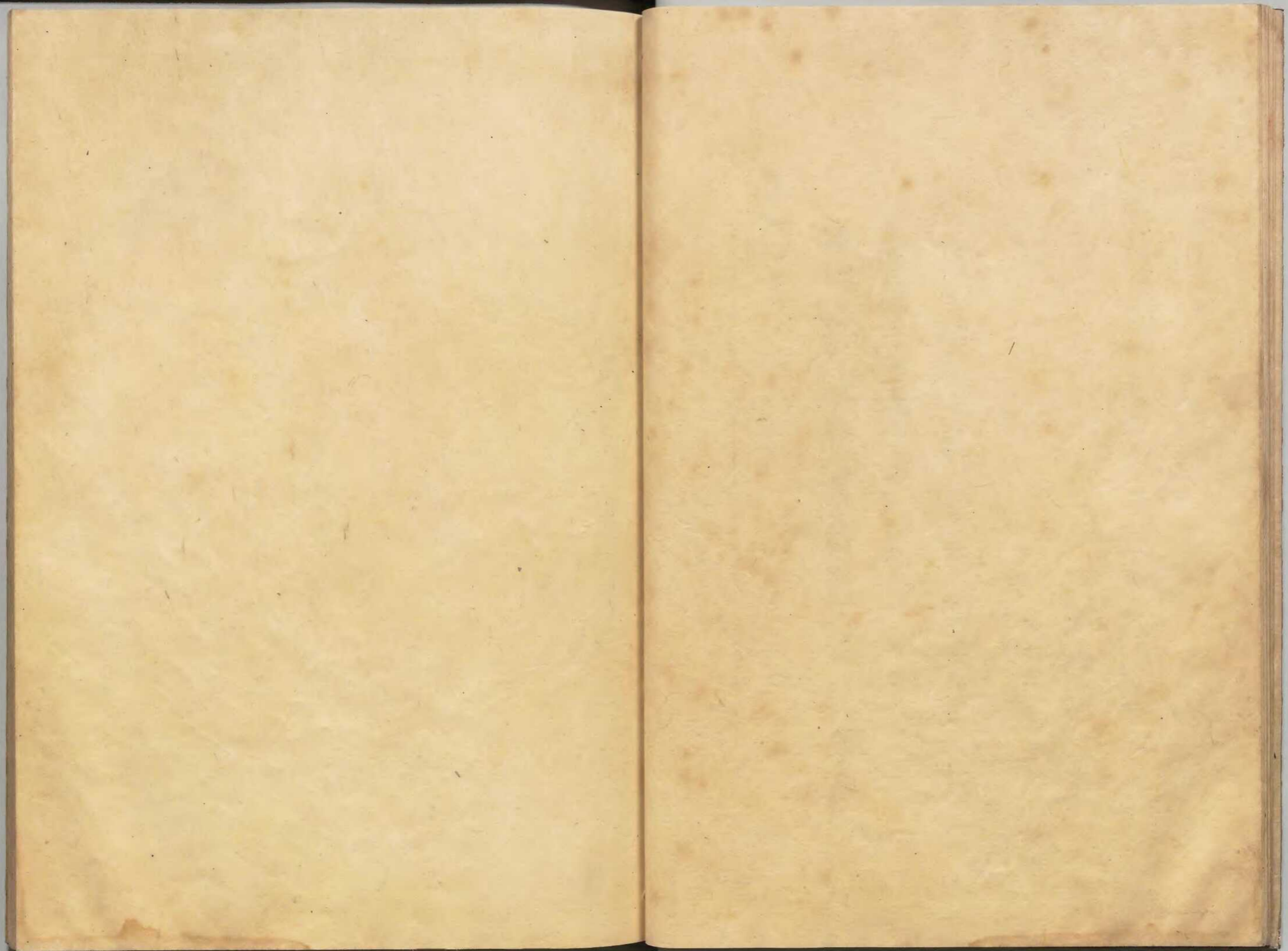
貞次

助次郎 牛國武苑江戶

寛永十一年二月廿五日より

將軍御一 御借

家乃 紋角乃 二川 御借





青柳 あざやなぎ

某 あな

内函 うちごみ  
生國甲斐 なまくにがひ  
信玄 のぶひら  
一 ひと  
氏 うぢ

信正 のぶただ

内函 うちごみ

勝頼りょう一しつしふふ乃のららりり一しつしたたれ  
大指現おほさしげん一しはは之の一しつしくくままりりる

信次しんじ

勘去来

將軍家しやんぐんけ一しはは之の一しつしくくままりりる  
乃の後のちととつつととむ

家乃紋けのゐん澤さわ滔たう

小  
名ナ

●  
重ムカ後ゴ

在シ在シ在シ

生シ國クニ後ゴ河カ

今イマ川カハ氏ノ真マコト一ヒト一ヒト

法ホウ名ナ道ダウ清セイ

重ムカ周シュウ

長チカ長チカ水ミヅ

生シ國クニ日ヒ本ホン

大指現とよみ

台地院殿とよみ

寛永四年三月十七日さい死と

法名一榮よらえい

正俊

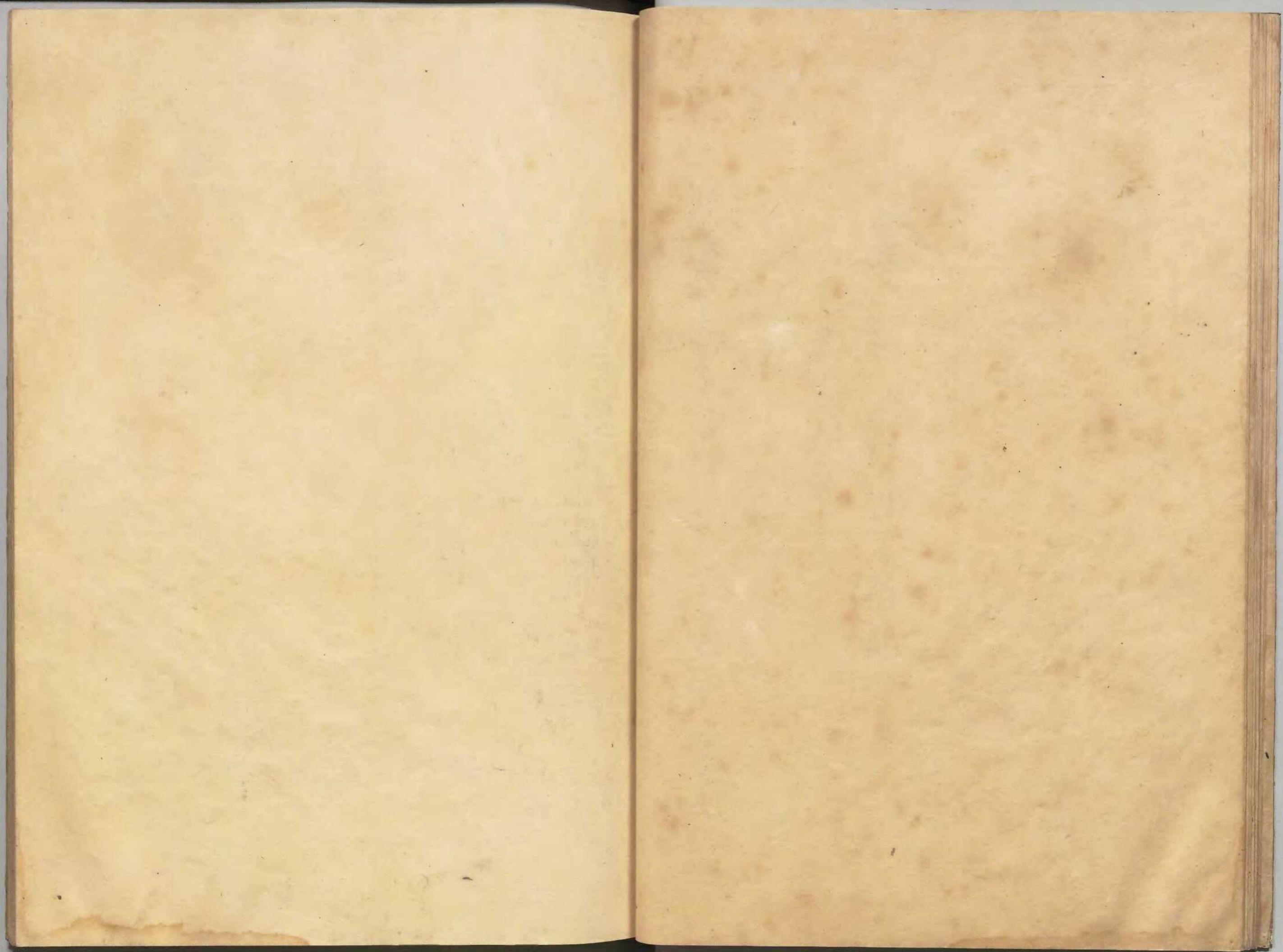
森玄宗 牛園武苑いづみ

台地院殿とよみ

將軍家より信之とよみ

番とつとむ

家乃紋 丸のうららしんぎょう法印令



源首ふしや

吉次よし

主斗助

生國上うぶくに

氏連乃弟右田源十郎うぢのむすこ ぎへだ げんじゅうじ

江名全勝えな せんじょう

盛名

右名求

牛國武苑

大指現とよこ

名地院殿

將軍家より信之よりまうり沙代友

と信之より

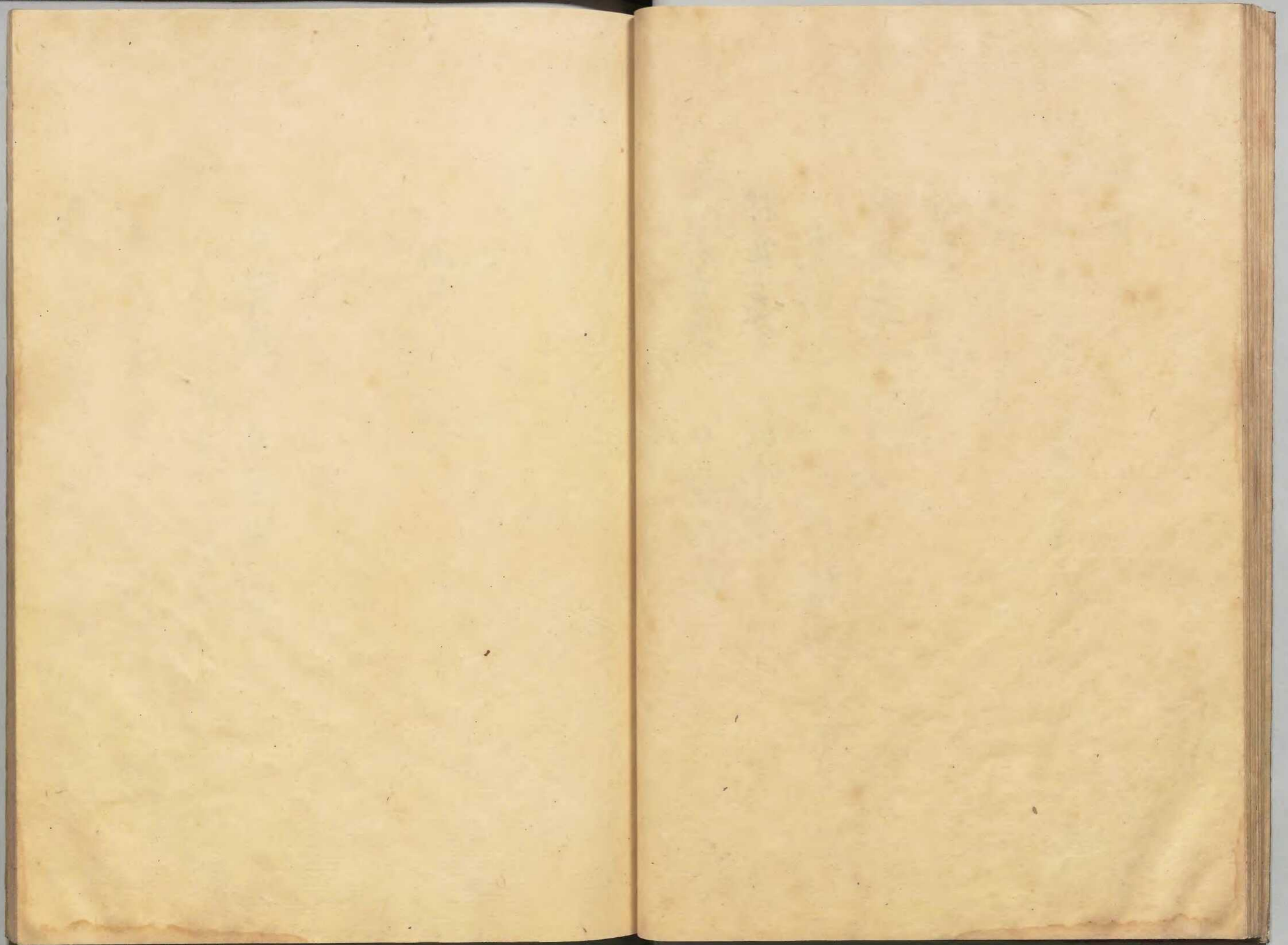
音政

右名求

牛國同あ

將軍家より信之よりまうり

寛永十一より沙代友とよこ





政次

氏部古史

生國甲斐

くしめは信玄よりい勝頼より信玄

天正十年甲辰列没落北境

大権現より信玄より信玄より

徳星



寛永十九年十二月十日  
將軍家より所之より  
將軍家より所之より

しる

政長

庄吉 生國甲斐

台徳院殿より

將軍家より所之より

盛政

清左衛門 生國同前

台徳院殿より

將軍家より所之より

寛永十六年より死と 江名道

盛重

長七郎 生國武乾

実々<sup>まこと</sup>若根<sup>わかしほ</sup>らふた束<sup>つか</sup>が子<sup>こ</sup>なり盛政<sup>もりまさ</sup>  
やいなひら子<sup>こ</sup>ととらうが世<sup>よ</sup>一<sup>ひと</sup>  
家督<sup>けとく</sup>とほぐ

盛長<sup>もりなが</sup>

伊呂<sup>いりよ</sup>束<sup>つか</sup> 牛國<sup>うしくに</sup>同<sup>どう</sup>あ

將軍<sup>しやうぐん</sup>家<sup>け</sup>一<sup>ひと</sup>は之<sup>これ</sup>とく

家<sup>け</sup>乃<sup>の</sup>紋<sup>いづ</sup> 友<sup>とも</sup>の丸<sup>まる</sup>

山やま瀬せ

正ただ家か

甚おく也や

紀き列り新しん宮みや一いっししももふふ

天あま正ただ十じゅう七しち多た一いっ死しと

法はふ名な之の岸ぎん

正ただ次じ

次つぎ原はら

牛うし國くに同どうあ

元和三年

台榭院殿

將軍家

乃數

二歳

世系

内河

正表

古名

牛國越後

天正十年甲辰列河入國

大指

大指現とらび

台地院殿より候へりし時  
吉田謙吉より届し事  
大指現乃おのせし甲列先方の業  
吉田とせめ付し事  
よりしとの事  
吉田右衛門と云ふ事  
吉田といふ事  
氏連化と云ふ事  
甲列と候列乃候し陣中候

又より款前後と云ふ事  
より又吉田と業内志と云ふ事  
小舎より候事  
遊泳と云ふ事  
として教日と送り氏連和親と云ふ事  
しふよりし事  
ありし事  
甲列より候事  
大指現より湯と云ふ事



大指現るの忠誠と石感ありて領地と

いふうらち小屋籠居れ志と

位列伍訪乃城とつけたりと

城をよほしし時小屋原に徳

謀なりし居せして教度下伍訪

如張と城書れ士卒是中本戦

大指現れむをせし伍訪乃城を圍の境

なり警衛志とくもとこらる

まがれとの多ふと存小笠原旗本に命

天正三年長久より陣此時伍訪乃

城書の徳士共十支とありけり

正者よりわくは諸費とてけり

本多氏後者大久保法印を猶とて

徳士のころごと

大指現る達し陣あり急りよ

いふ此と未愈やいなや乃旨と云上と

志くれやも城書大切乃後より

よりてあくる好りしと

ろろちり志田陣よとひく首級と  
ゆえ

日十八日小田系陣よと手持を  
て開東

長五年奥列涉陣よと

長徳院殿よと

宇都宮よと

めく上り涉を教のよき

持なして伏見よと

日十八日甲列よと  
り徳俊をゆりさる

日十九日大坂涉陣の  
よと

大指現よと  
り

涉陣の中記持を  
り

い

旨次

七左衛門

生國甲斐

正吉老人（？）よりて元和二年

より代々

台進院殿より伝へたるもの

同年甲列城妻とつとむ

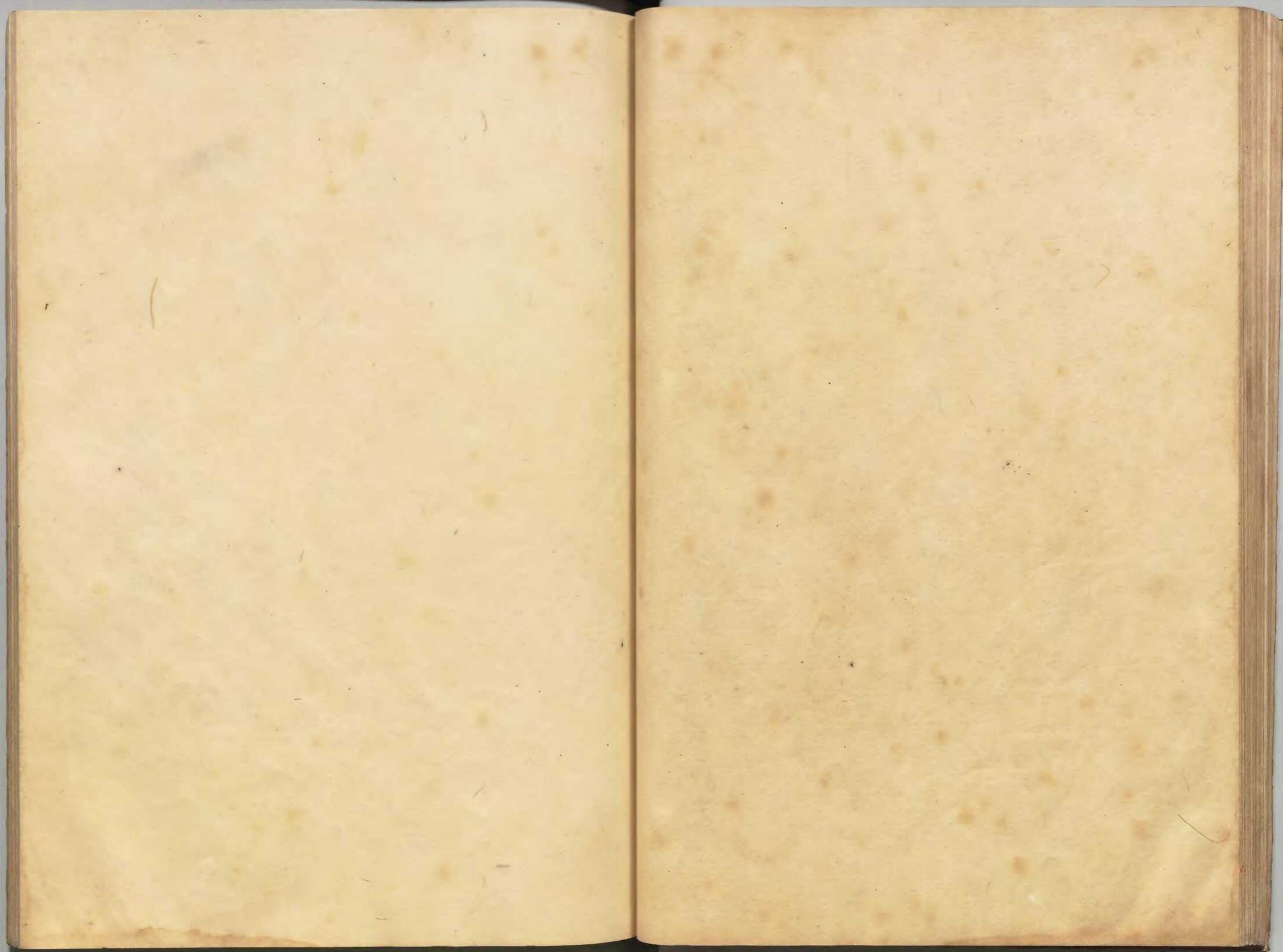
同日より長つとつとむ

寛永四年よりつとむ

將軍家より伝へたるもの

とつとむ

家乃紋 丸乃ら七星



政茂

下鴨

と大坂

生國英之河

武田信玄とてび勝頼一は

甲列没落此後政茂信玄乃息女と

うらまへ織田信忠と鉄女と

しるる列しるる信忠家

あふくろり

大指現うの女むすめとありて大久保石見守おおくわいしけん

うあつけりて政茂まさしげこれよあり

て石見守いけんしゅありて病びやう死し

法名蓮ねんねん正ただ

政真まさまこと

市老いちらう 生國甲斐なまくにのけ

父ちちと曰い大久保石見守おおくわいしけんあり

安長十九年石見守率しゅつあり

めしとて

大指現おおいさね一ひと湯ゆあり

命いのちとありて房ふさ列りやう船ふね夷い那な

能のり代たひ官くわんとあり

元和八年

白蓮院殿より九月皆みな滅めつ乃すなは涉しやく思し平へい

と功こう載ざいあり

將軍家ありてあり

興政

左五郎

牛國武苑

將軍家よりけりまゝ

家乃紋丸のうらよ松

塩入しほいり

●  
重顯しげあき

日向ひなた 生國なまのくに信濃しんの

天正十年甲列てんしゅうじゅうねんこうれつ波落なれのど紀き若田わかつた在依ざい  
了りょう余よ山やま小屋こや伴ばん野のよよ  
了りょう加奈かな伴ばん坂さか了りょうとといいとと言い名なありありけけ時とき

疾はやしととああ家か



同年八月二十三日死と歳二十七

重信三十一

令去来 生國同あ

右連院殿一 此之一 此之一 此之一

安長五年開ヶ原陣一 侍奉一

元和九年七月十九日死と歳二十七

重成三十一

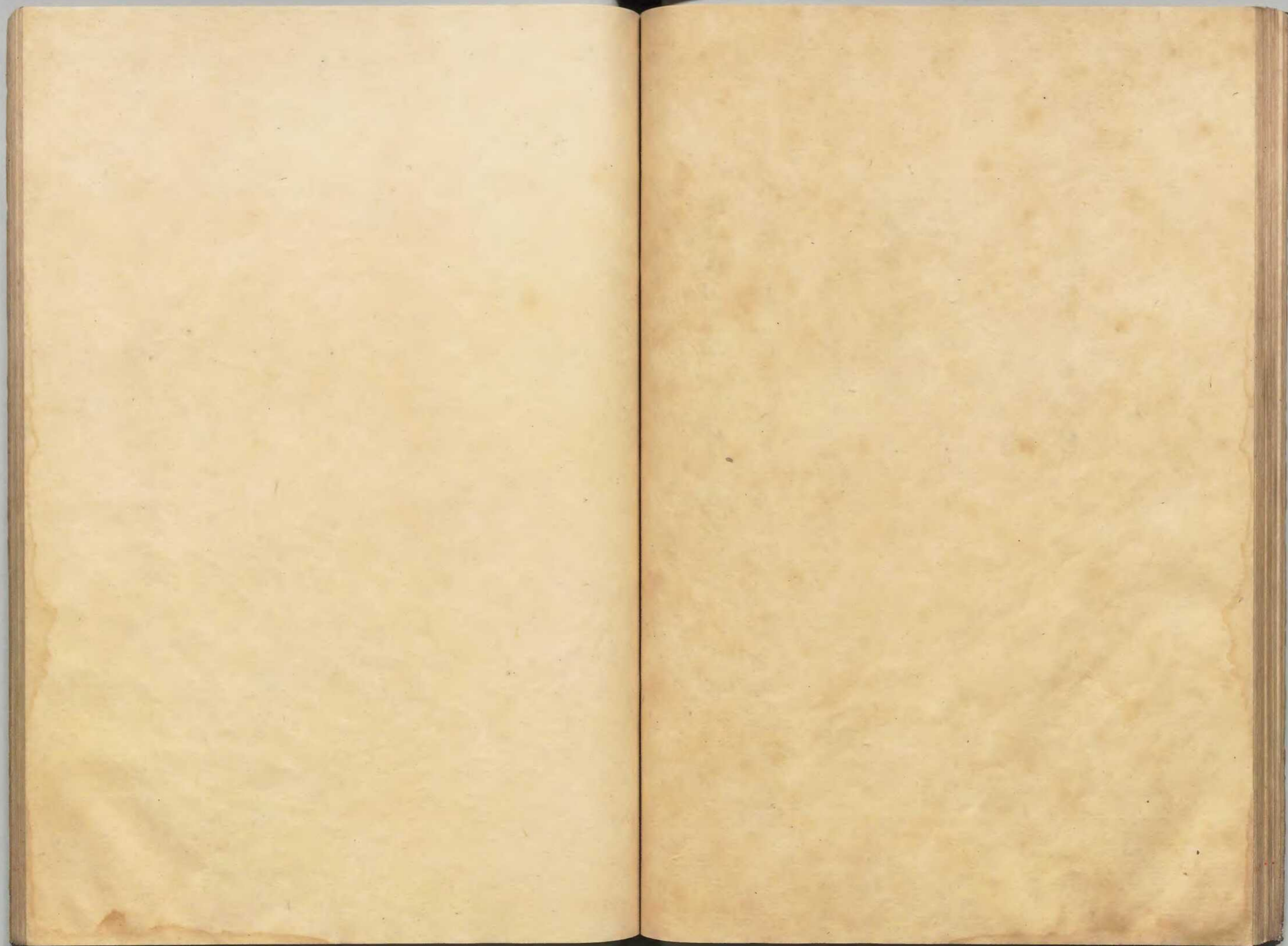
令去来 生國一 上野一

安長十九年同二十日大坂一 夜陣一

侍奉一 侍奉一 侍奉一

將軍家一 侍奉一 侍奉一 侍奉一

家乃紋一 侍奉一



川井

昌勝

市羽

生國之河

小糸氏康一はふけ時武列川

一とむく軍切あり氏康う乃

志と喜して感書とありふ今よ

りりり取持

昌俊

本羽寺

生國相控

氏康より信之乃ち大道寺後河守

より属と

天正十八年より

大指現より信之よりまうり西丸御

留ちる居毒とつとむ

享長十九年三月廿二日より死と

歳八十二 法名宗仁

昌等

五名求

生國武苑

父昌俊と曰西丸留ちる居毒とつとむ

元和三年十二月より

將軍家より信之よりまうり小十人

認め毒とつとむ

家乃紋  
訂貫くま

川井かわい

久定ひささだ

永吉ながきち

生國なまくに蓮江れんけい

元龜二年げんきより

大権現おほごんげん了りょう所ところ之の事こと

文祿三年ぶんりく十一月十五日じゅういちがつ十五日に死しす

六十二むそふに法名ほふな玄室げんしつ

久吉 ひさよし

次郎兵衛 生國同好

享正二子より

大指現し 許之 ころころ

元和五年六月十九日 死に歳

六十三 法名 寧ろ

久宗 ひさむね

源也 生國 駿河

享長七年より

大指現し 許之 ころころ

久次 ひさつぐ

次郎兵衛 生國同好

寛永八年十一月廿四日より

將軍家より 許之 ころころ

家乃紋 丸のうしよ鳩つばき酸すい草くさ



勝まさる

政元まさもと

市雲いちぐも也 生國いこく武苑ぶえん

小糸こいと氏やと康やすよほふ

天正十八年てんしやうじやうはちじやうねん小田原おだわら陣じん乃の紀氏きし在

よりより禮文らいぶんををふりふりりりいいく

今度いまど西國さいこく堺さい市し法はふをを家けよりよりりりて

忠節と抽<sup>ひ</sup>け<sup>る</sup>魚<sup>の</sup>旨<sup>を</sup>感<sup>ず</sup>け<sup>る</sup>も  
我<sup>の</sup>功<sup>を</sup>を<sup>し</sup>て<sup>も</sup>と<sup>し</sup>て<sup>も</sup>ひ<sup>く</sup>ハ恩<sup>を</sup>給<sup>ふ</sup>  
ありしとなり志<sup>を</sup>し<sup>て</sup>も小田原<sup>を</sup>  
没<sup>せ</sup>る<sup>も</sup>ゆ<sup>に</sup>と<sup>し</sup>て<sup>も</sup>お<sup>の</sup>こ<sup>ら</sup>る<sup>も</sup>と  
同年病<sup>に</sup>死<sup>す</sup>

政成

牛久保 生國同好

天正十八年

大指現<sup>し</sup>け<sup>る</sup>し<sup>て</sup>そ<sup>の</sup>ま<sup>つ</sup>る<sup>時</sup>

十一歳

開<sup>け</sup>る<sup>も</sup>陣<sup>に</sup>付<sup>き</sup>奉<sup>る</sup>

大坂<sup>を</sup>陣<sup>に</sup>付<sup>き</sup>奉<sup>る</sup>

元和九年九月<sup>に</sup>死<sup>す</sup>と<sup>し</sup>て<sup>も</sup>歳<sup>が</sup>四<sup>十</sup>三

政重

牛久保 生國同好

寛永二年

將軍家ノ一法ノ一々々々々

家ノ紋 釘費くわいばい

某

大学

生國甲斐

甲列いませ

大権現一厨一そまろぶる家

少三三州坂口郡内口いそいそ軍

志をぬきんけけ取

五象

大指現より涉越書とありふりふり

うつーい

と度州坂口郡内の一揆亦主東郡  
物起し又各各合好大村三尾村  
正沙堂志被討捕し女と感懐  
亦て國勢強し後此を形要  
亦亦法に事一其後方以  
廿一と油蒸の表軍勢十万余  
お調ふ依て國一た次才一池下

のよし... 長條合... 山... 山... 山...

六月廿二日 家康公涉判

右富大学助  
并梅吉海人教

天正十三年甲列御入國の日記

大指現より福見... 大指現

大指現甲列乃制法と改演松乃城

ゆり... 聖... 皇... 次... 大... 射... 卒... 岩...

三島 古学 物 考  
古学 考  
梅 考

七助と大學等談合せしむるの  
御書ありしうらうらうといふ

杉、素内友平屋つの上で申す

急度申然は、家中人教忠を連

甲府へ差然思、次郎大進村平岩

七助は、淡合後指圖、次青河、河鹿文

新府迄、お移時宜て、死に根、亦

形、要の、少も、之、中、由、以、之、始

正月十九日、家康公御判

植坂常隆外  
五郎大學助

文長三年、死に歳五十

昌資

右郎左衛門 生國同好

大指現とよひ

台垣院殿

將軍家より、此之、より、より、御書

毒とつとつ



五泉

新志

新志 生國甲斐

とてめは信玄より

とて正十子甲斐没落して

大指現御入國乃ら記由みく

小田原陣奥列陣より侍

右光

新右衛門

生國司

右衛門殿とよび

將軍家より侍之り

家乃紋

靴子白ト

石渡

勝次

地内

生國相模

とどめは小糸氏とてつふ  
天正十八年小田原没落のち

大権現とよみ

台漣院殿うつふそまろふ病死

勝久（いさ）

源右衛門

生國氏（い）花（はな）

元和三年

白蓮院殿とよみ

將軍家より信之（のぶ）とよみとありし由と云

数と信と云

家乃紋丸の内よ（い）綿（わた）

石渡

某

右郎左衛門  
右田新六

元正

与去来

小糸治平少将  
一 江名道全  
一 小田原よき

元次

四郎吉束

寛永元年

將軍家  
一 湯  
一 一  
一 一  
一 一

安連

作賜

三郎次郎

生國之河

廣右郷

大権現





安重 やとけ

権九郎

生國武苑 むくに

寛永五年 くわんえいごねん

將軍家 しやうぐん へ 得見 とくけん 一 いち 一 いち 一 いち 一 いち

同十年 どうじゅうねん より 迄 いた 一 いち 一 いち 一 いち 一 いち

家乃紋 けのの 鴉丸 からめ

松野まつの

助信すけのぶ

作渡さくわたり 生國なまくに茂しげ

太田おくだ之樂のら 了りょう 清名しみづな 清雲しみづぐも

助正すけのただ

栴津さつづ 生國なまくに同どう 友とも

小糸十郎こいとうじやう一い汗あせふふろろろろ  
大権現おほいけん關東かんとう涉入せつにゅう國くに乃の記しめめらられれるる  
汗あせ之の一いろろろろろろ 法名ほふな正ただ宗むね

資信すけのぶ

勘考かんこう

資物すけもの

左五ひだりご左ひだり五ご

助勝すけかつ

也や右みぎ五ご

大権現おほいけんととよよいい

右述院みぎのせついん殿どの

將軍しやうぐん家いへ一い汗あせ之の一いろろろろろろ

助次すけつぎ

源みなもとの右みぎ五ご

家乃紋

たばいとうこま

房成むろなり

停達だて

と長束

生國むら駿河が

天正十八年しんげい八月やうげ廿にじゅう二に日にち

大指現おほさしげん了りやう行ぎやう入にゅう山さん崎さき寺てら



